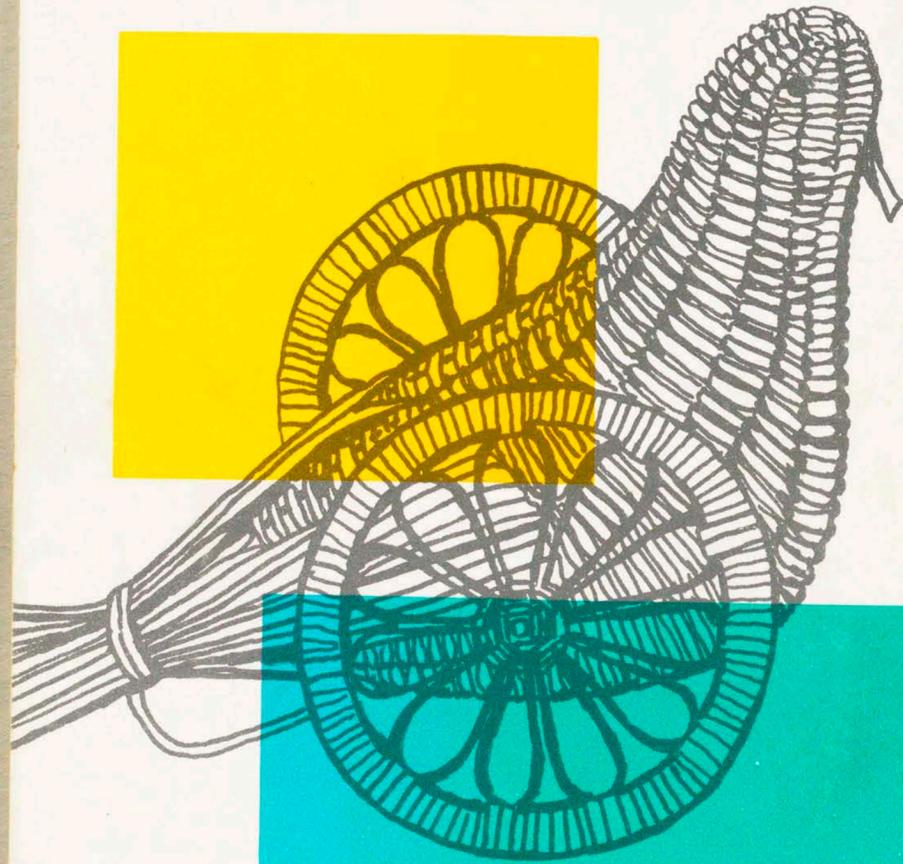
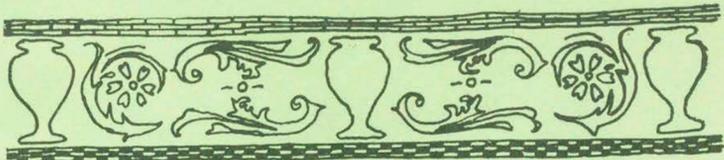


ひめまつ

26



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会



ひめまつ 第二十六号 目次

表紙……坂本好一 題字……石川木魚 扉……阿久津一枝 写真……伊藤礼一

〔巻頭言〕 好ましい本校の雰囲気…………… 須賀友正 1

〔特集〕 校長先生の叙勲を祝って 祝歌・祝辞・祝詩…………… 田村芳江 2
 良い意見はみな取り入れて(新生徒会長としての抱負)…………… 荒牧正子 7
 生徒会は全会員のもの(二年の活動を顧みて)…………… 8

特集 学園ニュース・トピック…………… 10
 善意・全国学芸コンクールに入賞・ハワイ研修旅行作文コンクール入賞・「税」の作文で国税長官賞
 ・体操部の活躍・初のPTA研修旅行実施・宇短大に自治会発足・各学友会支部の活躍・各種検定
 合格者・運針競技大会優秀賞・校内読書コンクール入賞者・ユネスコ弁論大会に優勝・その他
 生徒会総会・生徒会役員選挙・校内球技大会
 ・弁論大会・合唱コンクール・嬉しい隣人の

◆奉仕に慰問に学友会の活動

鹿沼駅清掃・老人ホーム・小山老人ホーム・七井養老院・育成学園・普恵園・乳児院・三楽園・鳥
 山老人ホームの慰問レポート外

二つの感想…………… 第一回運針大会・調理科試食会について…………… 26
 書くことに活躍した人たち…………… 木下 麗子・金井ヨシ子・福田多美子・鈴木 恒子 27
 稲川 京子・平野 和子・大塚美智子 38

●弁論大会入賞者の論旨集…………… 40
 「真の自由とは何か」…………… 渡辺 幸江 国際連合への期待…………… 篠崎恵美子
 「真の自由とは何か」…………… 信瀬ひとみ

詩

吉野 清乃・山崎 好子・神長登美子・七田喜代美・黒川 圭子・福田 靖子・稲川 悦子
 佐藤万利子・高橋 里美・星野 房子・磯 久子・田中 和子・阿久津光枝・前沢 友子
 永山たき子・大内 文子・直井みや子・金子 篤子・鈴木 敬子・大門 純子・大森 正子
 阿久津秀子・枝 政子・今井 雪子・稲葉 文子…………… 42

職員寄席

伊沢 雪夫・浜野 仁・河住 玄・波多野 昇・宇梶 芳蔵・君島 弘子
 吉村 成司・池葉 英子・清水 徹・長田 善吉・小森 清市…………… 51

交通戦争に打ち勝とう

講話を聞いて…………… 舟本 澄子・齋藤 良子・黒崎美智子
 雑儀に参列して…………… 宇賀神容子・直井 邦子・山川 明子

修学旅行(関西・瀬戸内海・四国)

講話を聞いて…………… 舟本 澄子・齋藤 良子・黒崎美智子
 雑儀に参列して…………… 宇賀神容子・直井 邦子・山川 明子

▽私達の発言△

七田喜代美・福田多美子・森 弘子・宇賀神里子
 荒井 尚子・吉原千恵子・稲葉 文子・鶴見 和代
 小林 恒子・鈴木 恒子・中島 愛子・齋藤 律子
 大越美代子・柿沼つや子・佐藤万利子…………… 74

校内読書作文コンクール優秀作品集

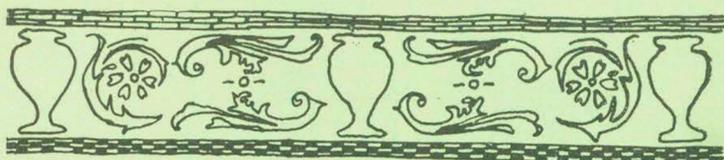
「花埋み」…………… 尾田 恵子…………… 93
 「華岡青州の妻」…………… 柳岡 紀子……………
 「お登勢」…………… 榎田由美子……………
 「日本人の意識構造」…………… 田熊 信代……………
 「金閣寺」…………… 坂本恵美子……………
 「少年」…………… 山本 晃……………

「雪国」…………… 国分 律子……………
 「季節のない街」…………… 阿久津賢二……………
 「車輪の下」…………… 高橋 和子……………
 「小僧の神様」…………… 駒場孝子……………
 「貧しき人々の群れ」…………… 井上 尚子……………
 「狭き門」…………… 戸田 智子……………

秋期大運動会の反省…………… 小河原幸江・根岸 睦子…………… 110
 家庭科技術検定について…………… 検定合格一覽…………… 111

クラブ活動この一年…………… 85
 昭和四十六年度学校行事…………… 112
 生徒会役員一覽…………… 115
 生活目標について…………… 10

評議員一覽…………… 116
 昭和四十六年度就職決定一覽…………… 115
 職員住所録…………… 118
 ▼編集後記△…………… 120
 奥付……………





勲三等瑞宝章を受けたよろこびの校長先生

先生の略歴

- 明治 34. 10. 3 須賀正雄の次男として宇都宮に生まれる。
- 大正 12. 3. 30 東京高等工業学校（現東京工大）機械科を卒業。
- 昭和 9. 10. 14 須賀学園創立者須賀栄子の死去に伴い、同学園を継承し、校長となり現在に至る。
- // 32. 10. 1 栃木県公安委員会委員となる。現公安委員長。
- // 37. 5. 10 国より藍綬褒賞を受ける。
- // 42. 4. 10 宇都宮短期大学を創設、学長となり現在に至る。

校歌

二 荒の高嶺を
 学びの道筋を
 かたみに誓いて
 教えの庭こそ
 あわれ尊

一

運かに仰ぎ
 まさしくあれど
 いそしみ励む
 げに尊けれ
 この学びや

二

庭面に茂れる
 変らぬ操は
 かたみに祝いて
 学びの庭こそ
 あわれ芽出度

二

千代万代と
 いそしみ励む
 げに芽出度
 この学びや

宇都宮短期大学附属高等学校校歌

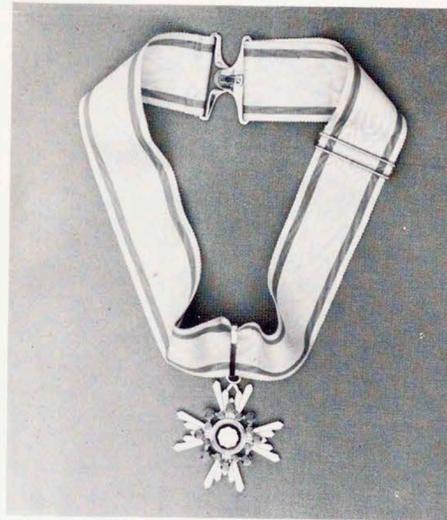


感動のひとつき……生徒会長から祝福をうけられる校長先生（祝賀式場にて）



叙勲祝賀パーティーで感謝の
あいさつを述べる校長先生

喜びをつつみきれず
談笑するひとこま……



勲三等瑞宝章
昭和46.11.3拝受



皇居に参内する校長先生ご夫妻



短大校庭で華々しく開かれた
運動会……3年ぶりでした



球技大会開会式——熱戦につぐ
熱戦でした

合唱コンクールと共に恒例になった
弁論大会……弁舌をふるう木下さん



裏磐梯キャンプ……雨にたたられました



生徒総会 活発な意見がたたかわされ熱気みなぎる会場風景



今年も栄子先生の墓参と敬老の日の
贈物を行ないました。



完成間近の増築校舎





しっかりした礼法を身につけて



剣道部、レスリング、男子バレー部と新しいクラブが誕生しました



関東大会（山梨）で奮闘するバレー部



関東大会（埼玉）に出場し第3位を獲得したソフト部

巻頭言

好ましい本校の雰囲気

学校長 須賀友正

創立七十周年を迎え盛大な記念行事が催された四十五年の秋も過ぎ、続く八十年の栄光に向かって力強い第一歩を踏み出した本年度は、社会的・国際的に、わが国にとつてきびしい年となり、そのショックの飛沫が、わが学園にも程度の差こそあれおよんだことは言うまでもない。

このことは、諸般の情勢から、あらかじめ予想することができたので、年度初頭から全校一致と引緊めて行く方針のもと、着々基本姿勢をととのえつつ進んだ結果、学業、生活、進路指導など大事な面で、著るしく順調な成果をおさめることができ、まことによきこぼしに限りである。

この激変する時代の流れのなかで、ごく僅かなケースを除き、補導面の事故が生徒数の増大にもかかわらずわめて少なかったこと、かつ中学校卒業の生徒数が減っているのに本校の入学者は前年度に比べて約三十%近く上昇し九百名にもおよんだという事実、この二点を見ただけでも、日ごろの本校の雰囲気がいかに好ましい状態におかれているかということが明らかであろう。

ひいては、県内はもとより隣県各校各界の心ある皆様方の、本校に対するご理解、ご認識が高まった証左に外ならないと考えられる。

それにつけても大切なことは、在校生の皆さんの自覚と発奮である。あなた方の一人ひとりが高く社会から評価されること、即母校の名譽を高め、評価を高めることになるのである。社会はあなた方の姿——在り方を見て本校を評価するのである。

私たちは、まず第一に毎日の授業をしっかりとやり実力をつける。第二にクラブ活動に励み両面から豊かな人間性を養い伸ばして行く。そして歩き方ひとつにしても、自信と誇りに充ち、胸を張って堂々と大道を邁進し前進しなければならぬ。

ことは、体操部がつかない躍進を遂げ、また弁論部は県ユネスコ弁論大会の上位を独占し、各種作文コンクールでも全国的に優秀な成績をおさめる等誇らしい材料は山積している。

なお、私も去る十一月三日、文化の日に当たり、皆さまのおかげをもちまして勳三等瑞宝章叙勲の光栄に浴し、盛大な行事のかずかずを催うしていただきましたこと、まことに有難うございました。記してお礼のことばと致します。

勲三等
瑞宝章

校長先生の叙勲を祝って

盛大な記念式典、パーティー開かる

めでたく古稀を迎えられた本校々長須賀友正先生は夫人華子先生の発起により、十月三日宇都宮グランドホテルにおいて、心のこもった内祝を催し、参加者六十余氏の方々からさかんな祝福を受けられたが、次いで十二月三日文化の日に当たり、勲三等瑞宝章の叙勲を受け、御夫妻ともども皇居に参内、天皇陛下から親しくおことばを賜われるの光栄に浴された。

この栄誉をたえるため、宇都宮短期大学および附属高等学校の学生・生徒・同PTA・同窓会等の各関係者が主催のもとに、十二月十七日、本校体育館において盛大な祝賀式を開催した。

太田教諭司会のもとに、式は本校オーケストラ部の壮麗な演奏裡にはじまり、主催者を代表して附属高校PTA会長の高山源吉氏の懇切なあいさつ、記念品の贈呈、学生々徒を代表して附属高校生徒会長荒牧正子さんのあいさつ、花束贈呈があつて祝賀に入り、栃木県知事横川信夫氏、参議院議員戸吐武氏、栃木県高等学校校長会々長錦織善市氏に次いで、皆川神宮氏が手塚武氏の祝歌ならびに河住玄氏の祝詩を朗

詠、いずれも言々々々教育功労者としての校長先生のご人格、業績をたたえる祝福のよろこびに充ちあふれ、二千の参列者の胸にぞくぞく

叙勲祝賀の佳き日に

須賀友正

勲三等祝ひの宴華やけるこのよろこびを妻と頌たむ

須賀華子

祝われる夫の叙勲の式、宴心にえがきひとり臥床に

勲三等夫の叙勲の祝ひ花束み親の墓に手向けまつらん

として訴えしみ送るものがあつた。

これに対して校長先生から、至れり尽くせりの謝辞があり、大島威二作詞、田淵進作曲の記念祝歌、校歌の斉唱をもって感銘裡に式を閉じた。

つづいて祝賀パーティーにうつり、校長先生のあいさつに次いで祝宴にうつり、祝辞やら祝歌の朗詠、また余興に懇談に、記念撮影に、校長先生を中心に和やかに、華やかに、宴は尽くるところを知らず、さしもの大会場も所せまきまで。音楽科講師の名倉先生ご夫妻のお祝いの余興(うた)を最後に閉会したが、けだし



PTAの皆さんから祝福をうける校長先生(パーティー会場にて)

本校創立以来最大の盛会な行事であつたと思われ。は、去る四十五年の七十周年記念の式典との日の叙勲祝賀の盛大な両催しを

踏まえて、来るべき創立八十周年の記念式典をより盛大なものとするため、全学園をあげて力強い前進をつづけようではないか。

松をおくる 米賣 黒須 秀

勲三等受賞の祝ひ慶びて那須の五葉松をこの門に植ゆ

祝歌 三首 教諭 手塚 武

きららかに日は照り映えて遙かなる二荒の高嶺雲動く見ゆ
冬の花紅く真白く咲きさかるとすじに生きた勲たたえて
人つくる道ひとすじにつらぬきしいさお讃ふる朝すがしけれ

須賀友正校長 叙勲三等見授瑞寶章

謹賦而奉頌 教諭 河住 玄

献身教育致精神 瑞寶叙勲聖世仁 清節堪欽
文化日 光風霽月古稀人

祝賀 卒業生 保田 絹子

祝賀会場拍手の中を首席の師の胸に勲三等瑞宝章光る

祝 辞

栃木県知事 横川 信夫

本日ここに、須賀友正先生の叙勲祝賀会が盛大に開催されるに当たり、お祝辞を申し上げる機会を得ましたことは私の深く喜びとするところであります。

今般、須賀友正先生には、多年にわたり私立学校教育に尽瘁せられ、このたびその功勞に対し、勲三等瑞宝章のご下賜がありましたことは皆様と共に誠に喜びに堪えないところであります。私も県政にたずさわる者とい

たしましてまことに榮譽のことと存じます。先生のご功績につきましては、今更改めて申し述べるまでもありませんが、終始一貫、本県教育界において貢献され、国家百年の大

本ともなる教育に、特に私立学校振興のため強い情熱をさげられてこられたのでありまして、先生のなみなみならぬご苦勞に対し、ここに深く敬意と感謝の意を表するしだいであり

日まで戦前戦後の激動する社会情勢のなかで私学教育界において尽力され、今日の宇都宮短期大学、同附属高等学校を設置する学校法人須賀学園を確立され、現在同学園理事長、宇都宮短期大学長および同附属学校長として活躍なされております。また、その間、先生には、昭和二十五年以来、栃木県私立学校審議会委員として、私学振興に貢献なされてい

主催者あいさつ

宇都宮短期大学附属
高等学校PTA会長

高山 源吉

宇都宮短期大学々々長、同附属高等学校長として、日ごろ私達のお慕い申し上げております須賀友正先生が、十一月三日文化の日に当たり、栄えある勲三等瑞宝章の叙勲をお受けになられました。まことにおめでとうございます。衷心からお慶び申し上げます。またかけの力として、いつも先生と苦業をともになさってこられた華子先生、ほんとうにおめでとうございます。

このことは、ひとり先生のみのお光栄にとどまらず、私共関係者一同のひとしく慶びとするところであり、かつ光栄に存ずる次第であります。

この慶びを共に慶び、共にお祝い申し上げます。たいと、宇都宮短期大学および附属高等学校の学生生徒・PTA・同窓会等の各関係者が寄りより協議し、本日の祝賀式を催うしましたところ、時節柄公私にわたりお取込みのところを、来賓各位をはじめ関係者の皆さん方

記念祝歌

大島威二 作詞
田淵 進 作曲

一、むらさき匂う山脈仰ぎ

須賀の学び舎そびえて高く

喜びの集いここに寿ぎ

永き歴史を偲びて歌う

二、深き緑の姫松の陰

真実の教え光も著く

慈父の誉はここに輝き

若き生命を高調て祝う

三、彩雲映ゆる高空の下

直き朋友誇りに満ちて

熱き希望はここに高鳴り

学と理想に勤しみ励む

多数の御臨席を得て、かくも盛大な式典を取

りいとなむことのできましたこと、主催者と

いたしまして、まことに、まことにこの上も

ない有難いことと感謝いたしております。

はからずも高校PTA会長として、今日の

佳き日めぐり会わせ、主催者を代表してお

慶びのごあいさつを申し述べたまたない機

会に恵まれました私といたしましては、光栄

これに過ぎたるものなく、かつ生涯忘れ得な

い思い出となることとあります。

思えば本学園は、明治・大正・昭和と三代

にわたる激動の世紀を生き抜いて、人間教育

に専念すること実に七十二年、創立者故実子

先生の建学のあとをうけついで三十七年にお

よぶ歳月を、一日といえども休むところなく

ひとすじに青年子女の教育に当たつてこれ

た先生の業績をかえりみまするとき、先生の

このたびの叙勲はまさに当を得たるものと拝

察いたされるのであります。

先生の人の為りにつきましては、今さら私

どもの申し上げるまでもなく、人格高潔、事

に臨んでは慎重にして緻密、堅実かつ誠意を

尽くされ、対人的には情にあつく、あたたか

く行きとどいており、深くお交わりを重ねれ

ば重ねるほど、何人もその床しさに惹かれ、

心からお慕い申し上げますにはおられない豊か

なお人柄のお方でございます。

このようなご人格に傾倒した私は、安心し

て子供の教育をお任せできるのは、天下広し

といえどもこの校長先生を措いて外にはない

と信じ、三人の娘をみなつぎつぎと本校にお

願ひてまいりましたものであります。

きくところによりますと、親子、孫と三代

にわたつて、子女の教育は本校一本と決めて

おられるご家庭も多々あるとのこと、この一

事をもちまして、いかに本校が父兄の方々

から信頼されているか、またいかに信頼に値

する教育成果を取っているかということ、

如実に示しているといつても過言ではないで

あります。

このことは、本校の生活目標である「一人

は一校を代表する」とのモットーのもとに、

校長先生を中心に、百五十名の先生方が心を

一つにして、本校の伝統である、二千二百名

の生徒ひとりびとりの個性、能力、適性に

応じたキメ細かい教育の積み重ねを行なつて

きた、その稔りの賜と私達はつねに感謝いた

しておる次第であります。

さて、先生には、さきごろ古稀を迎えられ

ましたが、ご覧のとおりかくしゃく(矍鑠)

たるものあり、現在県中高連のまとめ役、
県公安委員長をはじめ多くの公職にも就かれ
内外ともにいよいよ信望を高められておられ
ますこと、あわせてご同慶に堪えませぬ。
どうか、先生、華子先生お二方とも、何卒
健康に留意せられ、益々お元気に本学園の
発展のため、未永くご活躍くださいませう
心から祈念いたしまして、私のごあいさつと
いたします。

昭和四十六年十二月十七日

祝 辞

在校生代表 荒牧正子

菊かおる文化の日、校長先生には栄誉ある
勲三等瑞宝章をお受けになられまして、まご
とにおめでとうございます。
私達二千余名の生徒一同、この受賞はわが
事のように誇らしく、喜ばしく、感激の心で
一杯でございます。
思いめぐらせば過去四十年、二代にわたる
経営とはいながら、私立学校の校長として
すぐれた手腕を発揮され、人間教育に専念し
てこられた御努力と御苦心には、並々ならぬ

ものがあつたことと存じます。特に、昭和二
十年、戦災によって校舎や教具をことごとく
失われたあの敗戦の動揺の時期には、いか
に、物質よりも人材を豊かにしようとする教育に
情熱を傾けられ、苦慮されましたことか。心に
残るエピソードの数々をお聞きするにつけて
も、先ごろお受けになられました藍綬褒章や
このたびの勲三等瑞宝章の叙勲は、まさに与
えられるべきものが与えられたという感がす
るのでございます。創立七十年を迎えた本学
園の中に、脈々と流れている暖かい校風と情
操は、人格豊かな校長先生のお心をそのま
ま表わしたものと考えますのは、私達在校生や
同窓生など身内のものはもちろんのこと、本
日、この式典にご参列下さいましたPTA各
位及び来賓の皆様がたの等しく感じておられ
る所ではないでしょうか。

多くの先輩から後輩へ、口から口へ、心か
ら心へと受け継がれてまいりました。二人は
一校を代表する、という生活目標を、校長先
生は、てらうことなく、身をもって私達に教
えて下さつたのです。

私達二千余名の在校生は、校長先生の業を
通じた尊いご指導を鑑として仰ぎながら、こ
れからの生活を美のあるものにしなければな

らないと心新たにしているのでございます。
先ごろ古稀の祝いを迎えられ、重なるお喜
びの中に、ますます深い人間的魅力をたたえ
られる校長先生、栃木県公安委員長をはじめ
数々の要職を任せてお忙しいお体ではご
ざいませうが、私達二千余名の生徒のため
に、又日本の教育界をいやが上にも向上、発
展させるためにも、どうぞご健康に十分お気
を付けられまして、未長く御活躍下さいませ
よう、心からお祈り申し上げます、お祝
いのことばといたします。

昭和四十六年十二月十七日

栄子先生胸像除幕式(45・11・3)

卒業生 保田絹子

愛孫の手に除幕されし師の胸像髪うすかりし
も在りし日のままに

追憶は走馬灯の如浮び来ぬ除幕されたる師の
胸像に
(宇都宮市在住・和哉学校経営)

良い意見はみな取り入れて

◆◆◆ 新生徒会長としての抱負 ◆◆◆

二年 田村芳江



この度、皆様方の暖かい御支援により、生徒会長という重要なポストに選ばれ、ここに改めて深く感謝いたすもの
でございます。

現在、まだ何から手をつけていいかわからない次第ですが、一日も早く皆様方の御期待にそよう一生
けんめいがんばる覚悟であります。そして、一年余の任期中生徒会員の皆さんと共に明るく活発な生徒会を作ってい
きたいと思っております。

皆さん、皆さんは生徒会というものをどうお考えでしょうか。それぞれ皆さんなりに考えをもっておられると思
いますが、私の感じとしては生徒会に対してかなり不満をいっている人も少なくないと思います。その不満でも
けつこうです。また、こういう点はこのように改めてもらいたいと思うことでも、喜んでお聞きしたいと思つており
ますので、どうぞ自分の意見をはっきり主張できる会員になつてもらいたいと思つています。生徒会のことにかぎらず、
すべてのことに關して自己を主張するということは、大切なことです。

まず私の仕事初めとして二月に行なわれる予餞会があります。その予餞会のために今から着実に計画を立てて行き
たいと思います。いかなる行事もち密な計画を立て、それにもとづいて評議会なども早めに関いて皆さんの意見を
より多く実施面に反映させていきたいと思つております。

そして私達みんなの手で「生徒による生徒のための生徒会」をモットーとして、今までのよい点はとりいれ、さら
に新しい創案を加え、それを実現させるべく共に努力して行くことはありませぬか。微力ではありますが、全身を打
ちこみ生徒会のために働く覚悟は誰にもまけないと自負しておりますので、これからも生徒会への暖かい御
支援と御協力をお願いし私のあいさつと致します。

生活目標

一人は一校を代表する

優しい心づかいの運動を推進

礼法を正す

己れに厳しく他人には寛大であれ

生活小目標

昭和四十一年度

きれいな言葉は心の表われ

悔いのない一日を送ろう

昭和四十二年度

校内での会釈、校外での目礼

「優しい心づかい」の推進

昭和四十三年度

あいさつは明るくほがらかに

ことばづかいを美しく

昭和四十四年度

何事にも自主的に

動作はきびきびと、言葉はきはきはと

昭和四十五年度

時間を大切にしよう

明るく笑顔で正しいあいさつ

昭和四十六年度

何事にもけじめをつけよう

紙屑のない学校にしよう

「特集」

学園ニュース
トピックス

議題は規則正
しい生活ほか

生徒会総会終る

六月十五日、火曜日十二時三十分より開会の言葉によって始められた昭和四十六年度生徒会総会は校長先生の挨拶、生徒会長挨拶、新本部役員紹介、専門委員会委員長紹介とスムーズに行なわれた。続いて四十五年度行事報告、本年度行事計画、四十五年度決算報告四十六年度予算案などが発表され議事に入るわけであるが、その前に各種報告についての質問を取ったところ、別段これといった質問もなく満場一致可決され議事に入った。議題はまず、(1)規則正しい生活、(2)図書館の利用についての二つがあり、前項の方は服装面に乱れが目立つとこのことで風紀面に

重点がおかれ、校則違反の問題などがかなり活発に討論され、なせ守られないのかその原因の追求などが行なわれた。結論としては高年生としての自覚を持って行動するしかないということに落ちついたが、それに付け加えて、心の姿勢を正すため学校に対して登下校の際、校門で一礼することを決めるかどうかという意見が出たが、結局本年度は個人の自由意志に任せるとのこと打ち切られた。(2)の図書館の利用については、せっかくの図書館なのに利用者が少ないこと、移転後日が浅いので、まだ図書整理は不十分だが、係としては整備に努力していること、館の利用者の態度がよくないことなどを議題に話し合った結果、まどめとして、本は各自が責任を持って元あった番号の場所へ返すようにし、大いに図書館を利用してほしいとの図書委員からの要望をもって一応討議を終了した。そ

の他としてあげられた三点については

(1)特殊体育部の廃部と体育委員会の新設。

(2)男子のクラブの新設について (3)生徒会会則についてなどであったが三案とも満場一致で承認された。

全体の反省としては、(1)入場が遅く、なかなか開会できる雰囲気になれなかった。(2)会員の発言が少なく全般的に消極的だった。(3)聞く態度については無駄話が多く、よいマンができていなかった。(4)議題の選び方は身近なものだったので良かった。発表者、提案者は、力強く発表し大変良かった。(5)議長はよく要点をまとめ、会員をうまくリードし良かった。ただし議題によって時間のむらがあった。

以上が生徒会総会の反省として出された意見のまとめである。(山ノ下洋子記)

『会長に田村芳江』

活発だった

生徒会役員選挙

十二月十一日土曜日、昭和四十七年度生徒会役員選挙が行なわれた。ポスターなどによって立候補者および方針の紹介と共に立候補

者自身も積極的な行動を見せ全校生の関心をさらっていたように思われた。三年生の生徒会役員と評議員とで選挙管理委員会を組織し今年には副会長候補十六名、会長候補十一名が立候補した。立会演説では応援弁士二分、立候補者三分と定められ、約三時間にわたり態度、内容ともに立派な意見が発表された。演説が終了すると第一投票箱から第六投票箱までクラスごとに投票が行なわれた。開票は生徒会顧問の先生、立候補者の責任者立会いのもとに選挙管理委員の手で行なわれた。今年度の立候補者はつぎのとおり

◇副会長立候補

クラス 氏名 方針 得票 出身中

一の一 上野 恵子 一二二 陽北中

(生徒会員による生徒会にしたい)

二 根本ユキ子 七七 鹿沼中

(活発な生徒会づくり)

三 松島 和子 六四 星ヶ丘中

(親しみある生徒会)

四 石原 幸枝 三四一 藤原中

(明るい学園づくり・生徒の団結)

五 西部 智美 三五〇 宮の原中

(全校による生徒会)

六 安納 信子 六九 陽西中

(生徒会活動を活発に)

七 阿久津茂子 四九 古里中

(明るい学校づくり)

九 阿部 佳直 一四九 陽南中

(生徒のための生徒会に)

十 三品 保夫 二一三 泉ヶ丘中

(活気ある学園に)

十一 芝山美也子 五九 七井中

(生徒会をよりよく発展させ

学校生活を向中させる)

十二 信頼ひとみ 九七 国分寺中

(常に誰とでも話せるような会に)

十二 小倉 京子 二〇 中川中

(生徒を守る生徒会)

十二 大内 文子 九七 七井中

(会員一人一人が積極的に)

十三 渡辺 容子 六九 城山中

(暖かい学校づくり)

十四 黒川 正子(団結) 七八 石橋中

十五 宮田 豊 一三六 旭中

(職員と生徒会を独立させる)

◇会長候補

- 二の二 河又 富子 五六 茂木中
(よりよい生徒会にするには)
- 三 鈴木 恒子 五五 旭中
(これからの生徒会)
- 四 出口 明美 七四 国分寺中
(生徒会に二千人)
- 五 菊池 朱実 七四 星ヶ丘中
(生徒会とは)
- 六 川北 久子(努力)五六 小山中
- 七 野中 厚志 四九〇 阿久津中
(生徒会)
- 八 田村 芳江 六四三 泉ヶ丘中
(生徒による生徒のための生徒会)
- 九 太田 雅子 一三四 古里中
(生徒と生徒会の融和)
- 十 駒馬 幸子 一三三 日野中
(理想的な生徒会)
- 十一 吉田美奈子 七四東那須野中
(生徒の生徒会)
- 十二 藤崎恵美子 二四四 一条中
(生徒による生徒会)

和と団結を目的に

華々しい校内球技大会

各候補者とも、本校の生徒会をよりよくするための意気に燃え、堂々と自己の抱負を述べた。結果は会長に田村芳江、副会長に野中厚志、西部智美が当選した。(小川原幸枝記)

第十二回校内球技大会は、全校生が青空のもとで運動に親しむとともに、クラスの和・団結を目的に、七月八日・九日・十日の予選十二日決勝と四回にわたり行なわれました。結果は次の通りである。

種目	第1位	第2位	第3位
ソフトボール	3年10組	1年14組	2年8組
バスケットボール	3年3組	3年9組	2年9組
バレーボール	2年10組	1年1組	3年2組
	3年12組	3年12組	3年12組

二年荒井尚子が優勝

校内弁論大会本選

昭和四十六年度校内弁論大会予選は十一月八日と十日本校講堂において開催、各学年各組から選出された代表が熱弁をふるった。次いで本選は十一月十三日行なわれ、予選通過者十三名の出場者が優勝を争ったが、結果成績は次の通り。

優勝 『青春時代に思う』

二位 二年八組 荒井 尚子
『人権を守れ、自然を返せ』

三位 『女性としての魅力』
二年六組 柳 みどり

最優秀賞に渡辺さん

県ユネスコ弁論大会

第十八回国際理解、国際協力のための全国高等学校生徒弁論大会栃木県大会は、十月二十三日午後一時から本校講堂に県下の各高校生が参加して開催されたが、審査の結果は本校弁論部員が上位を独占する結果となった。

最優秀(一名)
真の自由 本校二年 渡辺 幸江

優秀
国連への期待 同 篠崎恵美子
心のベルトをかけよう 同 信頼ひとみ

著しい進歩の跡

合唱コンクール本選

- 予選 一年五組・十二組・十三組
二年九組・十組・十一組
三年九組・十二組・十一組
- 本選 一位 三年九組
自由曲「ほたるこい」(二輪)
指揮者 関 恵久子
- 二位 三年十二組 (二部合唱)
自由曲「さくらさくら」
指揮者 山ノ下洋子
- 三位 一年十二組
自由曲「野ばら」(二部合唱)
指揮者 福田多美子

第八回校内合唱コンクール本選が、十一月二十七日体育館で全校生徒が一堂に会し盛大に開催された。十一月八日の予選を経て本選へと勝ち進んだ精鋭の集まり、さすが本選にふさわしい雰囲気であった。

今年の課題曲は、緒園涼子作詞 ホーソン作曲「希望のささやき」。第一位には、学校長より金の女神が授与され、講評でも進歩の跡

嬉しい隣人の善意

学級文庫に英辞書を

屋代操さんの個人寄付

創立七十周年を記念して、本校生徒会では各学級に学級文庫をつくり、辞書とか参考書文庫本程度の書物は各学級費で購入して、休み時間など自由に読めるように配慮されているが、日ごろ本校と親しい関係にある山崎百貨店の屋代操さんから左の手紙に添えて英語の辞書四十冊がおくられた。本校では隣人の善意のおくり物として有難ういただき、早速各クラスで活用されている。以下は屋代さんの手紙の一部――

先きに創立七十周年記念行事に皆さまと共に賛助させていただき誠に有難うございました。生徒会誌「ひめまつ」を拝読して学級文庫を作ろうとこのことを知り、日ごろ御校のご用命を担当しております私も皆さまの勉学の

旺文社作品鑑賞の部入賞

全国学芸コンクール

旺文社主催「第十五回学芸コンクール」最終審査は応募作品七万七千余点に対し慎重につづけられていたが、その結果本校から「作品鑑賞」の部に応募した次の二名が佳作(二十名)に入賞し、賞状ならびに記念品をおくられた。

「走れメロス」を読んで 一年福田多美子
「山椒魚」を読んで 二年鈴木 恒子

木下麗子さんが優秀賞

ハワイ研修旅行作文コンクール

イトーヨーカ堂主催、旺文社協賛の「ハワイ研修旅行懸賞作文」私はこんな職場で働きたい」に応募した本校三年木下麗子さんは優秀賞を、同二年金井ヨシ子は佳作にそれぞれ入選

した。応募数は全国各地から二〇、九八七編うち木下麗子は第二次審査(七〇名)を突破第三次審査(二〇名)にも合格、十一月二十日上京して面接試験に臨んだが、惜しくも最優秀賞を逃し、ハワイ研修旅行(一週間)招待の好機を失った。なお三年尾田恵子も入選それぞれ賞状および記念品をおくられた。

優秀賞 「血の通った職場で誇りをもって働らく」 三年 木下 麗子
佳作 「福祉施設で働きたい」 三年 金井ヨシ子
入選 「公務員になりたい」 三年 尾田 恵子

稲川京子さんが優秀賞

人権擁護作文コンクール

栃木県人権擁護委員連合会、宇都宮地方法務局主催の「基本的人権尊重の精神を普及高揚のための高校生作文コンクール」において本校から応募した次の三名が優秀賞および佳作に入賞、それぞれ賞状ならびに記念のトロフィーをおくられた。

優秀賞 「公害と老人福祉」 二年 稲川 京子

佳作 「人権尊重について」 二年 平野 和子

佳作 「公害の危機から人類を守る」 三年 木下 麗子

税の作文で国税長官賞

一年生の大塚美智子さん

国税庁が「税に関する正しい認識を普及するための全国作文コンクール」に応募した本校一年生大塚美智子さんの「納税こそお国のため」が、関東甲信越国税長官賞を獲得、去る十一月宇都宮税務署において賞状ならびに記念品を授与された。

優秀な感想文ぞろい

校内読書感想文コンクール

昭和四十六年度校内読書感想文コンクールの受賞者は、慎重審査の結果次のとおり決った。ことしは夏休中に一人最低三冊の本を読み、各自必ず一編の感想文を提出することとし、審査は各学年別に行ない、各学年毎に上位三位までを入賞とし表彰することとした。各学年別の入賞者は次のとおり。

学年	一位	二位	三位
一年	「車輪の下」 5組 高橋 和子	「小僧の神様」 8組 駒場 孝子	「狭き門」 11組 戸田 智子
同	「貧しき人々の群」 15組 井上 尚子		
二年	「少年」 7組 山本 晃	「山椒魚」 3組 鈴木 恒子	「雪国」 5組 国分 佳子
同	「季節のない街」 7組 阿久津賢二		
三年	「花埋み」 7組 尾田 恵子	「華岡青洲の妻」 13組 柳岡 紀子	「お登勢」 1組 榎田由美子
同	「日本人の意識構造」 6組 田熊 信代		

なお、各学年の佳作入賞者は次のとおり

「一年」 山椒太夫・野沢伊代子。守の家・真板久子。友情・阿久津宜子。生命の神秘・赤羽恵子。ひめゆりの塔・阿久津津子。路傍の石・小林草子。鼻・大場千尋。一房の葡萄・浅見祐子。走れメロス・白石恵美子。高瀬舟

・細谷修一。二十才の原点・寺内博。二十四の瞳・大塚美智子。走れメロス・福田多美子。二十四の瞳・岡和枝。阿Q正伝・大沢友子。人生論・飯山真理子。

「二年」 富嶽百景・斎藤律子。人生論・諏訪とし子。あすなろ物語・吉原桂子。漂泊の魂・五月女知子。羅生門・関山ハマ。青春・小室純子。車輪の下・荒井高子。こころ・平野和子。友情・田村芳江。花埋み・太田雅子。



送る身もやがては送られる身に……予餞会風景

初のPTA研修旅行実施 夜を徹して話し合いつづく



かねてPTA役員間の話題となり実現が期待されていたPTAの研修旅行がようやくまとまり昭和四十五年第一回が二月二十日(二十一日)両日にわたり鬼怒川温泉二葉館において催された。

出席者は父兄側―高山源吉・渡辺伊三美・岡田喜三・古橋常作・近藤登美子・植野由一・渡辺忠雄・六川彦次・君島啓二・大根田宏・室井伝・篠崎キミエ・日向野幸治・青木喜和・栃木栄吉・斎藤文夫・江面二三の諸氏。学校側―学校長・斎藤教頭・手塚・太田・

斎藤(辰)各教諭。

午後三時より会議室にて研修会。まず事務局が用意した本校生徒代表と父兄代表との座談会記録テープを聞いたのち「家庭における親子の話し合いについて」「男女交際について」「家庭学習について」等の問題を主要テーマに二時間半にわたって話し合いを行ない一旦解散、六時半から食事をともにしながら懇親会に入り、十二分に歓を尽くし親睦に意図の交換に夜を徹して話し合い多大の成果をおさめた。なお一学期中に新たに企画して親

子座談会を催し、夏期PTA総会時の一般懇談の資料とすることなどを決めた。

第二回は福島・会津へ

土湯峠で七色の虹 文学散歩も兼ねて

第二回PTA研修旅行は去る十一月二十七日・二十八両日にわたり行なわれた。今回は県外へ出たいとの希望者が多かったため、福島方面を遊ぶことになり、次のコースとプログラムにもつき実施した。

二十七日学校―西那須野―白河―郡山―福島(物産館)もじり石・信夫山見学―飯坂温泉ホテル「渓谷」一泊。
二十八日飯坂―土湯峠―猫苗代湖―若松(飯盛山)―鶴が城見学―田島―五十里―今市―学校(解散)。

途中一本松市へさしかかるころ、車中「現代詩の時間」が開講され、光太郎、智恵子の出会いから「樹下のふたり」の詩の朗読(講師手塚先生)などもあり、もじり公園では文学散歩を楽しみ、ホテルでは五時から研究討議(テーマ「安全通学のための情報の交換

について」。「高校生と性の問題」「高校生らしくくとはり」等を中心に盛んな討議が行なわれ、また、十二月十七日催される学校長の叙勲祝賀式には父兄も受付、案内等の役につき積極的に参加することを申し合わせた。つづいて夕食を共にしながら懇談会に入り余興に歓を尽くし、のち三々五々市中を見学。翌日は土湯峠越え。雪の吾妻富士を背景に七色の冬の虹がわれわれ一行を歓迎。思わず大歓声が上がった。峠にかかるや残雪數十センチ、さすがが厳しい。猫苗代湖ではシベリヤからはるばるやってきた白鳥にお目にかかれたことも大収穫の一つ。また若松から田島を経て五十里へ出るコースは初めての人が多く、深山幽谷数時間におよぶドライブはあたかも蓬莱に遊ぶの感があり噴声の連発。なお斎藤文夫氏が外科手術後の不自由な足で参加された壮々たる意気には敬服の外なかつた。―来年も県外へ、との希望が多く出た。同時にせつかくの機会なのだから、もっと多数参加してほしいとの声が強かつた。

宇短大に自治会発足

創立五年目を迎えた宇短大は順調な発展を つづけてきたが学園の発展に伴ない学生自治の声が高まり、四十五年五月十八日自治会が初足、初代会長に川沼文夫氏が選ばれた。

なお、第一期生によって創刊された大学新聞「おか」は、自治会の機関誌として新たに組織的に復刊されることになり第二期が発刊された。

大学祭も須賀学園創立七十周年記念行事の一環として第一回を華々しく開幕、本年度は十一月二十一―二十三日の三日間にわたり行なわれ、演奏・講演・展示・装飾と多々の好評を博した。

圧巻は何といつても教授連の演奏。ほんとうに「メッタには聴けないシンパライシイものです。」高校生よ、なぜ君たちは大学祭へ押しかけないのかと借問する。(手塚記)

第九回定期演奏会

恒例の定期演奏会は十二月二十一日午後六時から栃木会館ホールにおいて開催、こしも宇都宮東高校合唱団(約三百五十名)の賛助出演を得て、ハレルヤコーラスの最後をかざり、盛大に終了した。

- 演奏曲目はつぎのとおり
- ①ヘンデル・合奏協奏曲第六番ト短調OP.6-6
 - ②ハイドン・交響曲第92番ト長調 オック スフォード
 - ③ヘンデル・オラトリオ「イサイヤ」よりハレルヤコーラス他
- なお当日は午前の部(本校生徒)午後の部(中学校招待および本校生徒、夜の部は一般公開としたが全聴衆から絶賛を博した。

県芸術祭写真部門入賞

本年度の入賞者はつぎのとおり。
入選「たわむる」一八二年 伊藤 尚子
同「おばあちゃん」一二年 阿久津一枝

全国高等学校編物コンクール佳作に入選

バンロンスリット 三年 小宅キミ子
エプロンドレス 同 池田 米子
エプロンドレス 同 斎藤紀美子

書道部大いに奮う

- 下野教育書道展
- 特選 伊沢 洋乃
銅賞 宇賀神 里子
吉田 雅子
- 正しい選挙啓発書道展
- 二位 伊沢 洋乃
三位 海老原 節子
佳作 田村 和江
我妻 真由美
荒川 栄子
柴山 愛子
- 宇河地区芸術祭
- 特賞 伊沢 洋乃
優賞 荒川 栄子
渡辺 秀子

運針競技大会優秀賞

- 優賞 海老原 節子
佳作 我妻 真由美
田村 和江
(部長・伊沢 洋乃)
- 3年の部
- | | | |
|----|--------|-----|
| 1位 | 岡野 孝子 | 3-5 |
| 2位 | 富永 京子 | 3-4 |
| 3位 | 阿久津ヒロ子 | 3-6 |
| 3位 | 小宅キミ子 | 3-5 |
| 3位 | 高橋みさ子 | 3-4 |
| 3位 | 小林 俊恵 | 3-1 |
| 3位 | 石内美津江 | 3-1 |
| 3位 | 渡辺 政子 | 2-1 |
| 3位 | 山川 行江 | 2-4 |
| 3位 | 高橋 早苗 | 2-2 |
| 3位 | 野沢 妙子 | 2-3 |
| 3位 | 出口 明美 | 2-4 |
| 3位 | 上田真理子 | 1-1 |
| 3位 | 増淵 敏子 | 1-6 |
| 3位 | 川又 正子 | 1-3 |
| 3位 | 谷口 操 | 1-5 |
| 3位 | 熊倉美智子 | 1-2 |
| 3位 | 谷 洋子 | 1-6 |
- 2年の部
- | | | |
|----|--------|-----|
| 1位 | 岡野 孝子 | 3-5 |
| 2位 | 富永 京子 | 3-4 |
| 2位 | 阿久津ヒロ子 | 3-6 |
| 2位 | 小宅キミ子 | 3-5 |
| 2位 | 高橋みさ子 | 3-4 |
| 2位 | 小林 俊恵 | 3-1 |
| 2位 | 石内美津江 | 3-1 |
| 2位 | 渡辺 政子 | 2-1 |
| 2位 | 山川 行江 | 2-4 |
| 2位 | 高橋 早苗 | 2-2 |
| 2位 | 野沢 妙子 | 2-3 |
| 2位 | 出口 明美 | 2-4 |
| 2位 | 上田真理子 | 1-1 |
| 2位 | 増淵 敏子 | 1-6 |
| 2位 | 川又 正子 | 1-3 |
| 2位 | 谷口 操 | 1-5 |
| 2位 | 熊倉美智子 | 1-2 |
| 2位 | 谷 洋子 | 1-6 |
- 1年の部
- | | | |
|----|--------|-----|
| 1位 | 岡野 孝子 | 3-5 |
| 2位 | 富永 京子 | 3-4 |
| 2位 | 阿久津ヒロ子 | 3-6 |
| 2位 | 小宅キミ子 | 3-5 |
| 2位 | 高橋みさ子 | 3-4 |
| 2位 | 小林 俊恵 | 3-1 |
| 2位 | 石内美津江 | 3-1 |
| 2位 | 渡辺 政子 | 2-1 |
| 2位 | 山川 行江 | 2-4 |
| 2位 | 高橋 早苗 | 2-2 |
| 2位 | 野沢 妙子 | 2-3 |
| 2位 | 出口 明美 | 2-4 |
| 2位 | 上田真理子 | 1-1 |
| 2位 | 増淵 敏子 | 1-6 |
| 2位 | 川又 正子 | 1-3 |
| 2位 | 谷口 操 | 1-5 |
| 2位 | 熊倉美智子 | 1-2 |
| 2位 | 谷 洋子 | 1-6 |

特別教養講座

一・二・三年とも活発に

◇四十六年度二年生特別講座

- 五月十五日 純潔について 水沼外科院長 水沼三郎
 - 六月 五日 交通安全について 氏家自教所長 白石善一
 - 九月十八日 激動する社会に生きる 生活指導部長 手塚 武
 - 十月 二日 読書について 県立図書館長 鮎ヶ瀬次郎
 - 十月二十一日 敬語について NKK宇都宮支局長 有馬 靖
 - 一月十四日 二極分化現象に揺れる社会 経営コンサルタント所長 鈴木健二
- ◇四十六年度三年生特別講話内容
- 六・一二 交通講話「交通安全について」 講師 氏家自動車教習所長 遠藤省二氏
 - 七・一七 衛生講話「健康と生活」 講師 宇都宮保健所長 山田美弥雄氏
 - 九・二二 時事講話「アメリカを視察して」 講師 三洋シリコン電子工業(株)

常務 坂井正明氏

- 一・一二 修養講話「感謝の日々」 講師 新教育連盟講師 栗原ラク氏
- 一・一三 家庭講話「家庭電気器具の知識」 講師 東京電力(株) 石原良一氏
- 一・二二 文化講話「ヨーロッパを旅して」 講師 フランス文学者 元東京学芸大学教授 石川 湧氏
- 一・二四 税務講話「税と日常生活」 講師 宇都宮税務署総務課長補佐藤田亘氏
- 一・二七 仏教講話「ブツダの教え」 講師 安養寺住職 中臣洪範氏
- 二・一八 美容講座(資生堂・カネボウ)
- 二・二二・二五 テーブル・マナー (新うえの八階)

三年生の社会見学

三班に分かれ県内事業体へ

三年生の就職希望者については、夏休中にそれぞれ希望の職種をえらび、職場見学をするよう勧め、特に縫製関係職場は、計画的に夏休中見学を終ったが、九月二十日、野木・

間々田方面・益子・真岡方面および鹿沼・栃木・小山・結城方面の三班に分かれ一斉社会見学を行なった。見学先つぎのとおり
リズム時計・旭光学・三洋シリコン・栃木ニッサン・山崎・ナビスコ・ゼブラ・正和製作・蒲原電子・栃木硬石・セントラル縫製の各社
当日お忙しいところを貴重な時間をさいて懇切なご配慮を頂きました各社の皆さま方ほんとうに有難うございました。生徒たちも初めての事業体見学で「ほんとうに勉強になった」と口をそろえて述懐していました。

日商珠算検定合格者

- 一級合格者(一名) 2の11 神戸 美子
- 二級合格者(三名) 2の12 酒主久美子 3の10 小平 博美・菊池 幸子
- 三級合格者(十五名) 1の14 山口 仁子 2の9 小川 恵子 2の11 山口千鶴子 2の12 秋元セキ・玉造幸子・蓬田登志子

校内珠算検定合格者

- 二級合格者(十名) 3の7 中田美枝子 3の9 柴山栄子・神山かよ子・稲見登子 3の10 松本 文子 3の11 中島 照江・古川千恵子 3の11 福田 節子・倉井 秀子
- 三級合格者(十九名) 1の13 田崎 陽子・渡辺 容子 1の14 小倉 弘子・倉井昌子・黒川正子 2の3 国崎 君江・立花陽子 2の9 小川 恵子 2の10 池下美香子 2の11 木村 正子・高橋 悦子 2の12 黒川真由美・玉造幸子・山崎徳子 3の10 蓬田登志子 五十嵐礼子

全商英語検定合格者

- 二級合格者(二名) 3の8 小林久美子 3の9 伊沢 洋乃
- 三級合格者(十八名) 1の3 竹村 瑞枝 1の4 山沢 悦子 1の8 伊藤 厚子 1の9 小林 弘美 1の12 柏湖 富子 1の12 川田 典子 2の9 吉森 弘子 2の9 太田 雅子 2の9 大石千鶴子 2の10 池下美香子 2の10 矢部 陽子 2の12 森 京子 3の5 町田 敬子

北関東簿記検定合格者

十二月五日宇商高で行なわれた簿記検定に応募した本校生徒の成績はつきのとおり。
二級合格 三十八名
三級合格 三十四名

大畑栄子さんが優秀賞

全関東高校弁論大会で

足高弁論部主催全関東高校弁論大会は十月十日足高講堂で栃木・群馬・茨城・埼玉・神奈川・東京の都五県から十三選手が参加して行われたが、本校代表として出場した大畑栄子さんは見事優秀賞を勝ちとり、本県勢唯一の上位入賞者として万丈の気を吐いた。

成果あがる体操部

- 各種大会に続々優勝
- 5/22 関東高校体操競技選手権予選会
団体総合 優勝
個人総合 優勝 青木 恭子
(都賀中2の10)
- 種目別
○平均台 優勝 山崎 恒子
(石橋中3の10)
○床運動 準優勝 青木 恭子
優勝 青木 恭子
○段違い平行棒 準優勝 青木 恭子
優勝 青木 恭子
6/11 13 関東高校体操競技選手権大会
千葉県銚子市
団体総合 九位
- 6/20 21 総体体操兼全国高校体操選手権予選会
団体総合 準優勝
個人総合 第四位 青木 恭子
- 8/10 11 国体県予選会
個人総合 優勝 青木 恭子
- 8/23 県下高校体操大会(二部)
団体総合 第四位

- 個人総合 準優勝 田辺 孝子
(藤原中1の14)
- 種目別
○平均台 準優勝 田辺 孝子
○床運動 田辺 孝子
- 10/24 29 国体体操競技和歌山にて青木出場
県で総合七位
- 10/30 県下高校新人大会
団体総合 優勝
個人総合 二年の部 優勝 青木 恭子
第六位 玉田よし子
(都賀中2の9)
- 一年の部 第三位 田辺孝子



学友会が奉仕に慰問に

活発な優しい心づかいの運動

今年で五年目

鹿沼駅清掃と慰問

鹿沼支部では奉仕活動をはじめてから今年で五年目、先輩の業績をうけついで次のような活動を行なっている。

一、国鉄鹿沼駅・待合室・ホーム・駅前広場の清掃実施(現在は毎週土曜日の午後三時半から、班別編成にもとづき、当番班により

実施している。下校途中なのでこの方法が最もよく、参加者も多くなった。

特に年末二十七日は一年生十名、二年生五名、三年生二名計十七名が参加し、徹底した清掃ができ喜ばれた。

二、老人ホーム千寿荘の慰問。

十月十日次の五名の人たちが参加した。

○二年 豊田峰子・渡辺三代子・宇賀神敏江金子篤子。二年 近藤成子。

○持参品 手拭・タオル 三五枚。雑布 八五枚。石けん 二五個。背掛け 二〇。

小山老人ホームを慰問

大谷・間々田支部代表が

大谷・間々田学友会では七月二十七日、小山市養護老人ホーム(定員五〇名)を慰問した。参加者は大谷九名、間々田九名の十八名。次いで二十四日終業式後大谷九名間々田九名計十八名の代表たちがふたたび同ホームを慰問。おじいさん、おばあさん方の心からの歓迎をうけた。以下はその感想文――

クククククククククククク
かえって励まされた私達

私達大谷・間々田学友会は、東北線利用者でありながら、乗降駅が異なり困難な思いをしているが、附属高校の生徒というきずなで強く結ばれている。この強固さに浜野先生・廻谷先生の助言が加わって、七月と十二月と老人ホーム慰問が実施された。

七月の慰問は、太陽がきらきら照る中を十余人の生徒が汗をふきふき、全員の真心のこもったおくり物を持って訪問した。ホームの関係者の方々、それにもましておじいさん

ひざ掛 二〇枚(毛糸の残り廃物利用で編んだもの)

十二月二十四日

- 三年 豊田峰子・金子ミヨ子・金子篤子・川崎加代子・安納町子・高田久恵計六名
- 持参品 雑布 二〇枚。手拭・タオル 二〇枚。石けん 三〇個。ケーキ 大一個。

嬉しいご苦労さんの一声

鹿沼駅の清掃に思う

当支部は鹿沼西中・東中の出身者で結成されている。顧問の先生は、三矢先生と池葉先生。この奉仕活動は四年前に「登校、下校中に見る鹿沼駅がきたないので、私達が清掃することによって、駅員さんの手はぶける」とともに、利用する人も楽しく快く利用できるのではないかと。という生徒側からの自発的な申し出により、数人の先輩によって始められたもの。毎週土曜日の午後実施し、一・二・三年生を含め、八人から十八人の班を一班として、二ヶ月から三ヶ月に一回の割合いで、季節にあわせて、曜日、時間を変更し、約一時間の清掃を行なってきた。時々、花びんに

(支部長・豊田峰子)